



あけましておめでとうございます。私達の会の今年の抱負としては、なんといっても原発の再稼働を許さないということではないでしょうか。昨年9月より、大飯原発が定期検査で稼働を停止して以来、日本の原発は1基も動いていません。現在、原子力規制委員会は安全審査を行って、安全と認めた原発から稼働させようとしています。

世の中に「絶対」ということが無い以上、誰も原発が絶対安全ということはできません。万一、事故が起きれば、日本は壊滅的な被害を受けます。よしんば事故を起こさなくても、もうこれ以上放射性廃棄物を増やし続けることはごめんです。更に原発で働く労働者は「被ばく要員」といわれ、健康被害が起きています。原発の再稼働をなんとしても阻止しましょう。

## 学習会を開催しました

12月8日、烏山区民センター会議室にて、DVD「原発はいま」を上映し、被ばく労働問題について意見交換を行いました。参加された方々の感想文を紹介します。

### 1. 本日のテーマ「被曝労働者」についていかがでしたか

・貴重なフィルムを借り出して下さり、見せていただいてありがとうございました。福島だけでなく、全国の原発の定期点検でも労働者がしてくれないとまわらない現実をつい忘れがちなこと気付かされた。他人ごとにならなくてもしていただける、していきたい、その弱みを原発推進者の人々が見つかること。あー、ため息も出る。

・1980年代にこのような貴重な記録があったのはすごいですね。しかし今もまったくその時代と変わっていないのにはびっくりしました。福島原発事故で大きな問題であることがより分かったわけですが、今も重要なのは、嘘をついて、儲けのために隠ぺいしている政府や企業、マスコミなどが存在していることです。日本のおくれた部分を体現している問題こそが原発だと思います。

・以前、問題だと思っていましたが、いつのまにか忘れて3.11を迎えました。事故後も、原発問題のなかではあまり採り上げられてませんが、とても大切な問題だと思っていました。ですので、テーマとしてとてもよかったと思います。

・廃炉のためには絶対必要な労働者で、非常に関心は強いが、実態を明らかにすることがタブーになっている現実を認識する状況で、残念でもあります。いろいろ資料の紹介があって参考になりました。



・過酷な労働条件の下で働いている人が多くいることが分かりました。最初のDVDは興味深く見ることができました。

### 2. 本日の学習会全体についての感想

・「どうしてもならない実態」がある中での不安も感じますが、発言を聞いて「隠されたことを引っ張り出して知ろうとしないといけない！」とわかった。

・報告をされた方が熱心に調べて下さったこと、感謝です。

・けっこう高度な内容の学習会をやっていてびっくりしました。若い人達にも入りやすいテーマも必

要かと思います。

・『ヤクザと原発』フリージャーナリストが原発作業員になって取材した本です。ご参考まで。

・結局、原発ゼロにするしかないという発言のみが建設的でしたが、いろいろな発言を聞いて、多少は自分の考えも深まったと思える。

・活発な意見が出されて有意義な時間をもちました。

### 3. さようなら原発！烏山地域の会へのご要望など

・近辺の他グループ活動の様子などが知れたら元気が出ると思う、ビッグ・イシューで堤未果さんが、今、運動は「知ること、あきらめないこと、分断されないこと（敵を間違えないこと）」が大切である」と書いてありました。同感です。

・烏山地域の会が結成された時、入会しましたが、仕事で会の集いに参加することができませんでした。本日初めての参加で、たくさんの方がいらっやっやっしてうれしかったです。これからが重要な活動の正念場ですね。粘り強く多くの市民を巻き込める工夫をしていければと思います。

・今後も追求し続ける活動を継続してください。

・一定の人数が集まったので今後も継続は力なりで頑張りましょう。

・少しでも輪を広げていこうと思います。

## 当会会員によるパブリック・コメントを紹介します

原発はこれまでもいろいろな事故を起こし、国会等で安全対策について問題にされてきたが、政府や電気事業者は耳を貸すことなく、安全対策を怠ってきたというのが歴史の真実である。そして、今も、原発を即時ないし段階的に廃止すべきだという国民の声は8割を超えている。その声に耳を貸すことなく、原発を推進していこうという今回の「エネルギー基本計画に対する意見」（以降単に「意見」という）は、反省どころか、歴史的過ちを再び犯そうとしていると言わざるを得ない。

まだ事故原因は完全には究明されていない。まずは原発再稼働ありきで、事故原因究明や安全性向上のための努力は、これと同時並行して進めて行けばよいということにしている。

私は、一旦事故が起きると人類に計り知れない損害を与えてしまう原発は今日の科学技術水準を前提にすれば、人類と

共存できないという見解を有しているが、百歩譲ったとしても、事故原因究明や安全性向上は原発再稼働の絶対的な前提条件でなければならないと考える。

日本は再生可能エネルギー資源国である。思い切った政策転換を計れば、再生可能エネルギーで自給率100%も決して夢ではない。

WWFインターナショナルは、2050年までに世界の全てのエネルギー

を風力、太陽光・熱、バイオマス、水力、地熱といった自然エネルギーでまかなうことが可能であることを示している。「全世界で自然エネルギー100%」というビジョンの達成は、危険な原子力に依存し続けることに比べれば、はるかに明るい未来像である。

今回の「意見」は、危機感の強調で原発の必要性を説いているに過ぎない。私は問いたい。福島第一は、今どうなっているのか、と。事故の処理は済んだのか？そして、避難区域は全て解除されて、

い出せない。

原発の燃料費で3.6兆円の国富が外国に流出という計算根拠がはっきりしない。一説では6,776億円という試算もある。

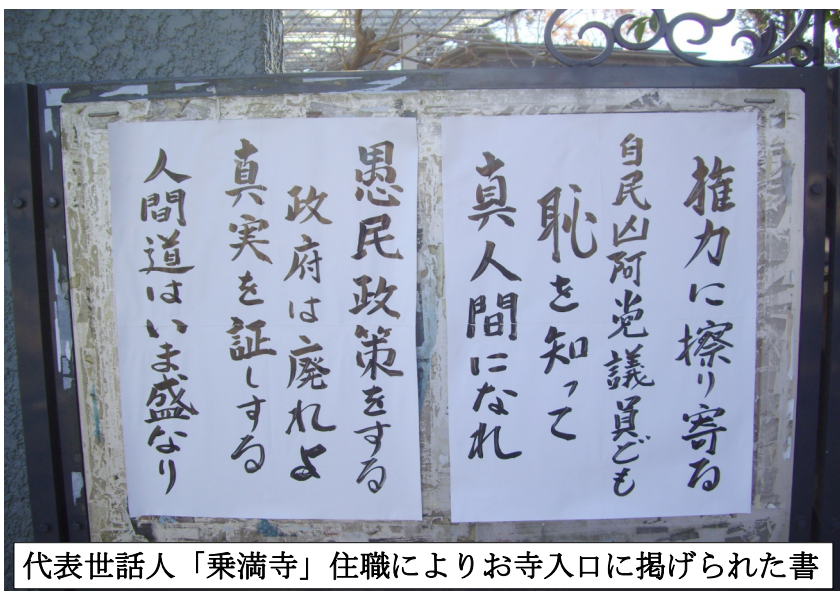
京都大学小出裕章氏は原子力とは、通常の方が燃える場合に二酸化炭素が出る現象とは異なる。原子炉を動かそうと思えば、ウラン鉱山でウランを掘ってくる段階に始まり、全ての過程で膨大な資材やエネルギーが投入され、膨大な温室効果ガスが放出される。また、膨大な量の核分裂生成物を生むことには多く語られていないことも

問題である。地球温暖化問題の本質は温室効果ガスの排出など、個別のものではなく、エネルギーの浪費である。

原発には優れた安定供給性はなく、発電コストは決して低廉ではなく、安全性の確保は難しいし、何より事故を起こさなくても被ばく労働は避けられず、高濃度

放射性廃棄物が溜まり続け、一旦事故を起こすと壊滅的な被害をもたらすことから、この際エネルギー源からは外すべきである。

「世界で最も厳しい水準」というが、アメリカと比べても決して厳しいと言えるようなものではない。猶予期間を設ける等の抜け穴も設けているもので、その基準に合致したからと言って、決して安全とは言えない。以下略（S. T）



代表世話人「乗満寺」住職によりお寺入口に掲げられた書

地域住民は自分たちの家に戻ることができたのか？ 放射能で汚染されたがれきの処理は済んだのか？

近海の魚は全て安心して食べていいのか？何一つ巧く行っていない。避難地区に指定された人々の生活が落ち着きを取戻し、そして、地域の農業や漁業関係者が元のように心配なく仕事をできるような状態になっていないなかで原発の再開なんか申し訳なくてとても言

## 東京都知事選挙、脱原発の候補者の勝利を勝ち取りましょう

猪瀬知事の5000万円収賄疑惑での辞任を受け、1月23日告示、2月9日投票で都知事選挙が行われます。生活を良くするためのいろんな角度からの候補者

選択となりますが、当会としては、脱原発をぶれずに実現してくれる候補の当選を期したいものです。そして脱原発を実現し、安倍内閣の暴走政治に東京からストップをかけましょう。